

公立邑智病院改革プラン点検・評価報告書
(平成23年度 実施状況、総括)

平成24年8月

公立邑智病院改革プラン経営評価委員会

はじめに

公立病院は、地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療の確保を図る上で、極めて重要な役割を果たしている。

しかしながら、近年、医師不足の深刻化などにより、地域医療を取り巻く環境は厳しさを増している。こうしたことから総務省では、地域医療の崩壊を防ぎ、今後とも地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくための公立病院改革プランを策定し、経営改善に取り組むよう、公立病院を運営する地方団体に対して要請した。

これを受けて、公立邑智病院においても平成21年度から3年間の改革プランを策定し病院改革に取り組んでいる。

改革プランについては、実施状況を年1回以上点検・評価し、公表することとなっており、当評価委員会は平成21、22年度の点検・評価状況を報告している。

今回は最終年度である平成23年度の実施状況について点検・評価を行ったので、3年間の総括も合わせてここに報告する。

基本的な考え方

今年度も総務省の示したガイドラインに沿って、①経営効率化、②再編・ネットワーク化、③経営形態の見直し、④その他地域医療についての4項目について点検・評価を行った。

4項目の点検・評価

① 経営効率化について

平成23年度は内科医師2名の増員があったが、常勤泌尿器科医師の退職に伴い入院透析が休止になり、病床利用率に影響を及ぼす中でのスタートであったが、単年度ではあるが黒字化を達成した。

診療材料や薬品の在庫管理を行い、材料費の削減を行っている姿勢も評価できる。

医師をはじめとする医療スタッフを、適切に配置する体制整備が必要と思われる。

② 再編・ネットワーク化について

島根県の方針に変更がなく、過去2年の報告と同様現状維持とする。

③ 経営形態の見直しについて

平成23年度の経常収支は黒字化していることもあり、現時点では、見直しの必要はないが、今後の動向によっては検討すべきである。

④ その他地域医療について必要なことについて

郡内唯一の救急病院、そして、急性期病棟を維持するためにも改革プラン作成時の診療体制を目指し、また病病・病診連携（地域連携）を確立することにより地域ニーズの隙間を埋めるべく有効な医療体制を構築できると考える。

おわりに（総括）

全国の公立病院の収支が改善されつつある中で、公立邑智病院の経常収支も平成23年度は黒字を達成している。しかし医業収支は3億2千万円の赤字であり、構成3町の繰出し基準に基づいた繰入金の増加が黒字化の大きな要因であることは否めない。

改革プランは平成23年度で一応の区切りを迎えたが、経営改革の取り組みに終わりはない。平成24年度以降も自主的に取り組むことこそあるべき姿である。まずは、累積欠損の早期解消を達成して頂きたい。

地域のニーズに応え収益を上げるためには、常勤整形外科医師、泌尿器科医師を確保し、外科医師の複数体制をとることが求められる。引き続き適切な医師確保に取り組んでいただきたい。

公立邑智病院改革プラン経営評価委員会
委員長 大畑 茂久

○第3回 公立邑智病院改革プラン経営評価委員会

日時 平成24年8月27日(月) 15時00分～16時30分

場所 公立邑智病院大会議室

○公立邑智病院改革プラン経営評価委員会委員

委員長 大畑 茂久 (川本町議会 議長)

副委員長 松本 正 (邑南町議会 議長) 欠席

委員 景山 良材 (美郷町議会 議長)

石橋 純二 (邑南町議会 副議長)

野坂 一弥 (川本町 副町長)

樋ヶ 司 (美郷町 副町長)

桑野 修 (邑南町 副町長)

石原 晋 (公立邑智病院 院長)

○事務局 公立邑智病院 事務部

日高 武英 (事務部長)

笠岡 千代子 (地域連携室長)

奈須 和子 (医事課長)

三上 和彦 (総務課総務課長補佐)

土井 祐子 (総務課企画経営係)